

「地図豆」の地図を広げて街歩き

80-1 蒲田・羽田穴森稲荷神社へ (距離約 10km)

江戸時代、多摩川河口の江戸側突端部分に漁業と廻船で栄えた羽田の漁師町（獵師町と呼ばれた）の昔をさがしてうろうろする。



五十間鼻

【道順】

京急穴守稲荷駅→穴守稲荷神社→海老取川堤→羽田大鳥居→白魚稲荷神社→五十間鼻→稲荷神社・玉川弁財天→多摩川旧堤 1→かもめ稲荷神社→旧羽田獵師町の小路→多摩川旧堤・船溜まりの水門→羽田の渡し跡・煉瓦積みの多摩川旧堤・船溜まりの水門→自性院・羽田神社・正蔵院→本羽田公園→長照寺・海岸寺→糞谷商店街→京急糞谷駅

【街歩き解説】

・旧羽田獵師町

江戸時代の多摩川河口左岸（江戸側）の突端部分に漁業と廻船で繁盛した羽田獵師町と呼ばれる集落があり、羽田浦とも云われた。現在の羽田 6 丁目付近になる。この集落と海老取川を挟んだ河口デルタの湿地を名主鈴木弥五右衛門が埋め立て造成した土地が現在の羽田空港の核になった場所で羽田獵師町鈴木新田と呼ばれた。

六郷川の河畔には柱が雑然と林立し小型漁船や遊漁船が繋がれて、今でも昔の雰囲気が残っている。街を歩くと、路地が縦横に走り、旧堤防道にはその片側の赤レンガ造りの低い堤が残り、ここが往時の水際であることを示す。

・穴守稲荷神社

文政元年（1818）頃、この埋立地の堤防が波浪でしばしば穴が空き難渋したので稲荷大明神を勧請して祈願致すると”あな畏（かしこ）”御神徳もあらたかに堤防決壊はなくな

り、それからは文字道理の穴守稲荷神社と称し、鈴木新田の守護神として崇敬されたとされる。

穴守稲荷神社拝殿奥のお宮にある“穴守の砂”は人を集めるといわれ、参拝者が持ち帰り玄関先にまくのだとか。そして穴にまつわることにご利益がある。花柳界や競馬など？

・鈴木新田と羽田飛行場

コンクリートに囲まれた海老取川堤の向う、羽田六丁目の東は多摩川の河口にできた低湿地で、扇浦、要島といわれてきた。天明年間（1781年から1789年）に羽田獵師町の名主鈴木弥五右衛門が新田を開発したので「鈴木新田」と呼ばれた。

東京国際空港の前身は、国営民間専用飛行場として昭和6年（1931）東京府荏原郡羽田町鈴木新田江戸見崎に当初300m×15mの滑走路一本で開業した（東京飛行場、羽田飛行場）。昭和16年の戦争拡大から民間航空は中断され軍用飛行場になり、更に敗戦直後米陸軍に接収されると飛行場の改修が行われて、近代的空港として整備された。1947年から外国民間航空会社の乗り入れが、1951年には日本の民間航空会社にも開放される。



羽田大鳥居・煉瓦積みの旧堤

・羽田大鳥居

鈴木弥五衛門による河口の砂州「要島」の新田開発に着手した際、堤に小さな稲荷の祠を祀って安全を祈願した。そのせいか堤は決壊せず新田は水害を免れた。稲荷の化身である白い狐を見たという目撃談もあり、祠は穴守稲荷神社と呼ばれることになった。「鈴木新田」にあたる弁天橋の空港側たもとは、かつて稲荷社の一部だった朱塗りの大鳥居が移転されている。撤去しようとする、祟りが降りかかり事故が起こると言われている事で有名である。

昭和20年4月、穴守稲荷社務所に爆弾が命中。宮司が死亡し、御神体は移動。穴守稲荷は閉鎖された。

同年9月東京飛行場は米軍が接收し、ハネダ エアベースになった。付近住民には強制立ち退き命令が出され、穴守稲荷のコンクリート製の鳥居撤去の工事も始まった。だが鳥居の上で作業をしていた米兵3人が、突然足を滑らせて落下。1人死亡2人重傷という事故が起きた。

再度、黒人工兵による鳥居撤収工事を行ったが、隊員の一人が機械の操作を誤り、身体を挟まれて惨死。工事は中断となった。そこで米軍は日本人の土建業者を募り、高額報酬を約束した。ところが工事直前になって、作業員に怪我人や原因不明の発作に襲われる者が続出し、請け負った業者も倒産してしまう。これで鳥居撤収工事は中断したままになった。

昭和37(1962)年、空港ターミナルビル拡張問題で、中断していた大鳥居撤去問題が持ち上がった。その直後、藤田航空のデ・ハビランドヘロン機が八丈島空港離陸後、乱気流に巻き込まれて墜落、死者19名。航空関係者の間で「大鳥居の呪いでは?」という噂が囁かれ始めた。

昭和41(1966)年、佐藤栄作首相は運輸省に対して、各地の空港整備促進と大鳥居撤去を指示した。すると2月4日(金)に全日空ボーイング727型機が羽田沖に墜落。死者133名。3月4日(金)カナダ太平洋航空・ダグラスDC-8型機が羽田空港に墜落。死者124名。3月5日、BOACボーイング707型機が富士山上空で空中分解。死者124名。同日海上保安庁のヘリコプターが事故調査中に羽田沖に墜落。死者3名。8月26日(金)日本航空チャーター機が羽田空港に墜落。死者5名。

「大鳥居移転の話が出ると飛行機が落ちる」と言われた。

とはいえ、現実の政治が呪いの噂ごときものに左右されるはずもない。昭和56(1982)年12月11日「第4次空港整備5ヵ年計画」が閣議決定され、大鳥居撤去も決まった。すると2ヵ月後の2月9日、機長が心身症による「逆噴射」により、日航機が羽田沖に墜落。174人中24名が死亡した。

その後17年、大鳥居撤去の話は出なくなった。そして撤去ではなく移転という事で政治決着し、平成11(1999)年2月3日、無事移転工事が完了した。

・白魚稲荷神社

火伏せの神様としても信仰があるという、「白魚」という名前がいかにも漁師町らしい

・五十間鼻

老取川河口堤防の接点を五十間鼻といい、六郷河口水域と羽田空港を望見できる第一番の景観地である。五十間鼻は、水中に長さ50間(約90m)に渡り石を敷き詰めた枕床で洪水時の急流から岸辺を守るために造られた。その海に突き出たところに、棧橋で繋がる水難事故者を祀る無縁堂がある。ここは、昔から流れ着いた水難者を供養するお堂があったのだという。

・ 玉川弁財天

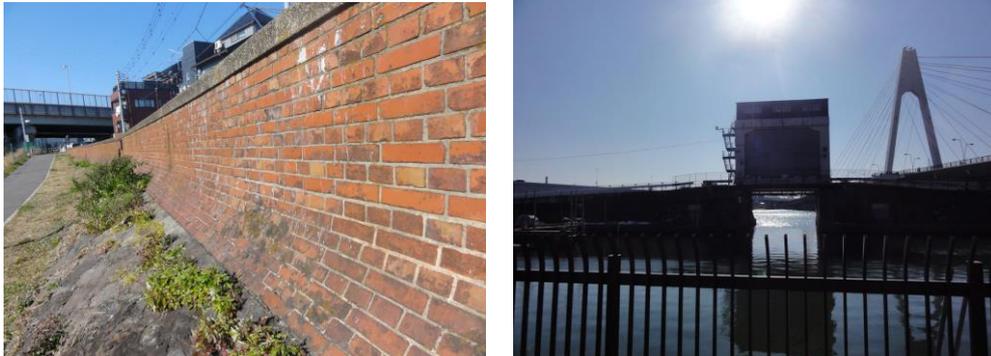
玉川弁財天では、5月11日に海上で行う伝統的な水神祭があるという。かつては宮島や江ノ島と並んで「日本三大弁天」の一つと呼ばれるような神社だったという？

・ かもめ稲荷神社

漁師が祈願し、カモメが飛来すると大漁だったことが由来だとか。門前に羽田道の標石が立つ。

・ 多摩川旧堤

かつての多摩川は、かなりの暴れ川で、たびたび洪水を起こし、大正7年（1918年）の河川改修工事で、レンガ造りの堤防が築かれた。その痕跡が今も多く残っている。



煉瓦積みの多摩川旧堤・船溜まり水門

・ 羽田の渡し跡

安藤広重「名所江戸百景」にも描かれた羽田と川崎との間の渡しは、川崎大師参詣の要路であった。羽田の渡しは「六左衛門の渡し」とも呼ばれ、昭和14年（1939年）に大師橋が開通するまで利用された。

・ 自性院・羽田神社・正藏院

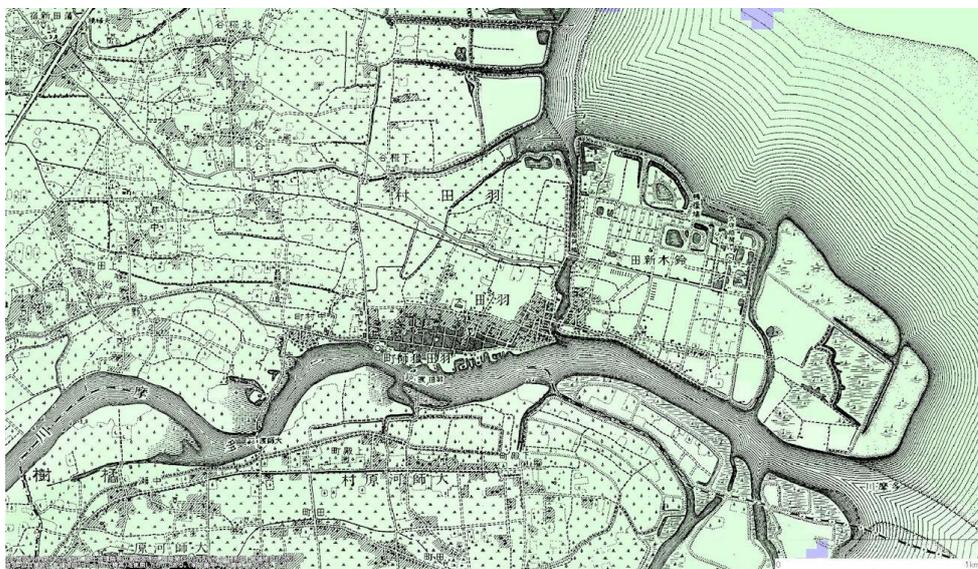
自性院の軒下には、弁財天のみごとな彫刻が施されている

富士講の人々が明治の初めに築いた、俗に「羽田富士」と呼ばれる小山がある

正藏院の作庭をした庭師は、中央造園の後藤由松だという。後藤翁が引退前の最後の仕事で正藏院の中興開山五五〇年記念事業で行った堀工事の真鶴石の石積みだという。門前には、羽田の魚介類や野菜を江戸に運び、羽田弁財天等に参詣する人々が利用した羽田街道の標石が立つ。

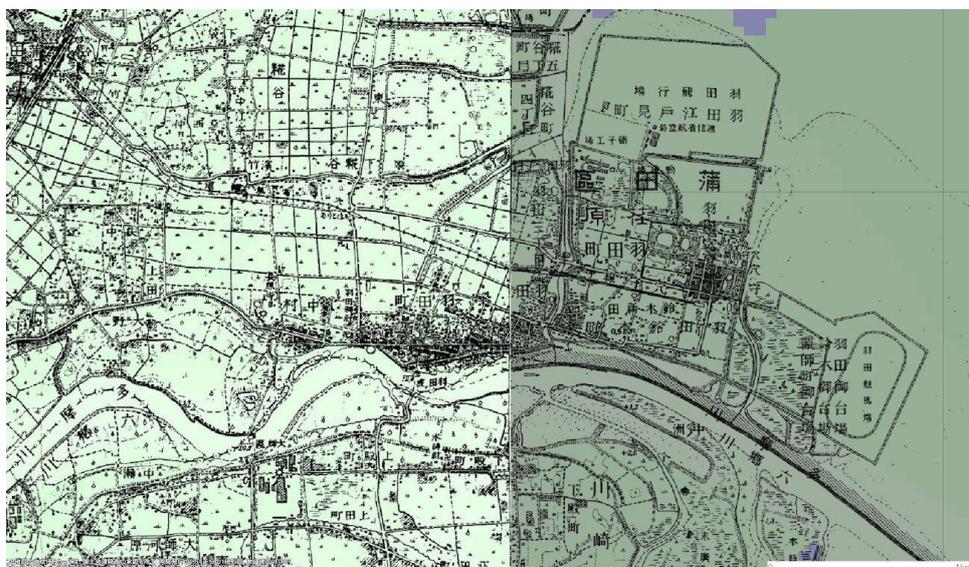
・ 羽田道

羽田道は美原通り（旧東海道）の内川橋たもとから分岐し、大森東、大森南、東糞谷を
通って羽田（弁天橋）に至る約五キロの道。往時は羽田の魚介類や野菜を江戸に運び、羽
田弁財天等に参詣する人々がこの道を利用した。



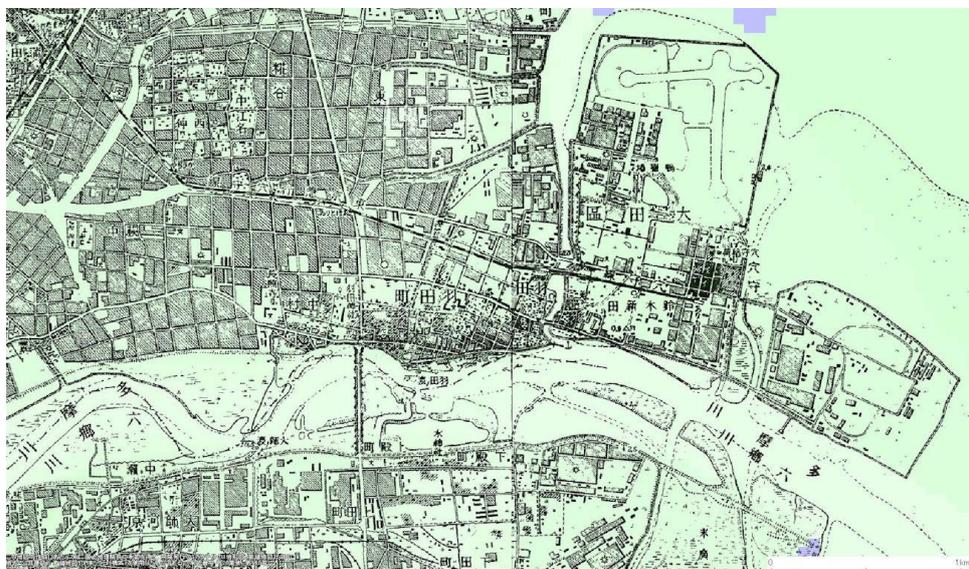
明治 39 年

多摩川河口付近には、多摩川に隣接して発達した羽田獵師町、そして新田開発のようすが
見られ、そこには鈴木新田、穴森稲荷のなどが読み取れる。当時の多摩川は（その後東京
都と神奈川県境になる）河川蛇行のままであって、堤防なども未整備である。



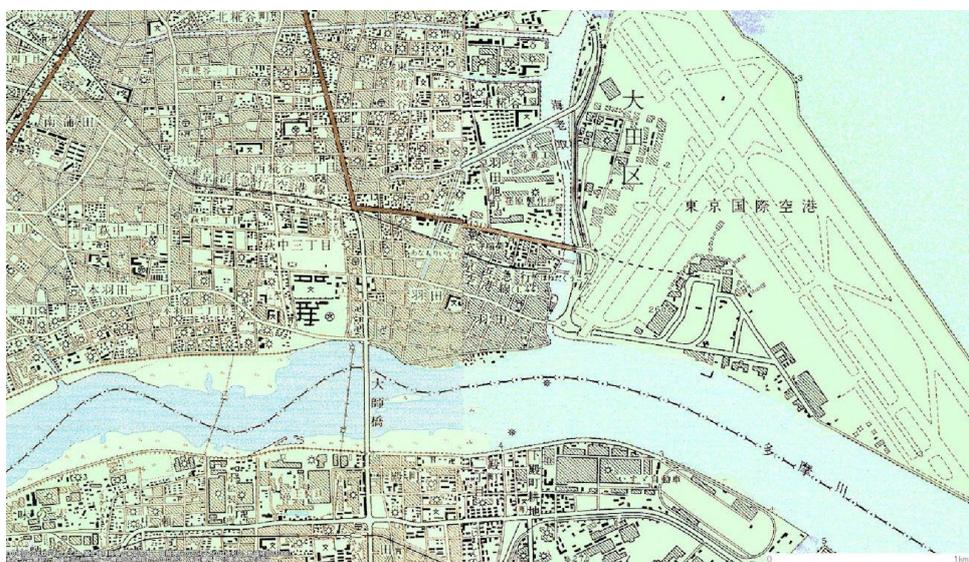
大正 11 年

新田の先の埋立地には、羽田競馬場、羽田飛行場が、そして穴森線が登場する。辺りの農地は一部耕地整理が進行し、一部は現在の道路網の原形となりつつある。多摩川の堤防は一部を除き未整備のままである。



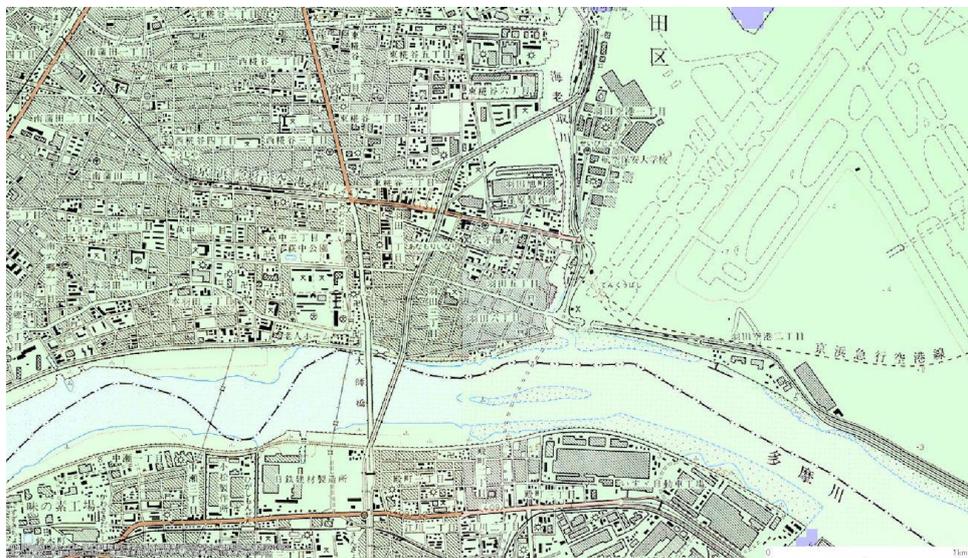
昭和 20 年

市街化が進行し、神奈川県川崎市側を除き農地はほぼ姿を消した。羽田飛行場はほぼそのまま、川崎市側には大きな工場が進出し始めた。大師橋が開通しているが、未だ大師渡しと羽田渡しが残っている。多摩川は現在の河川敷が確保され、左右の堤防整備が進みつつある。



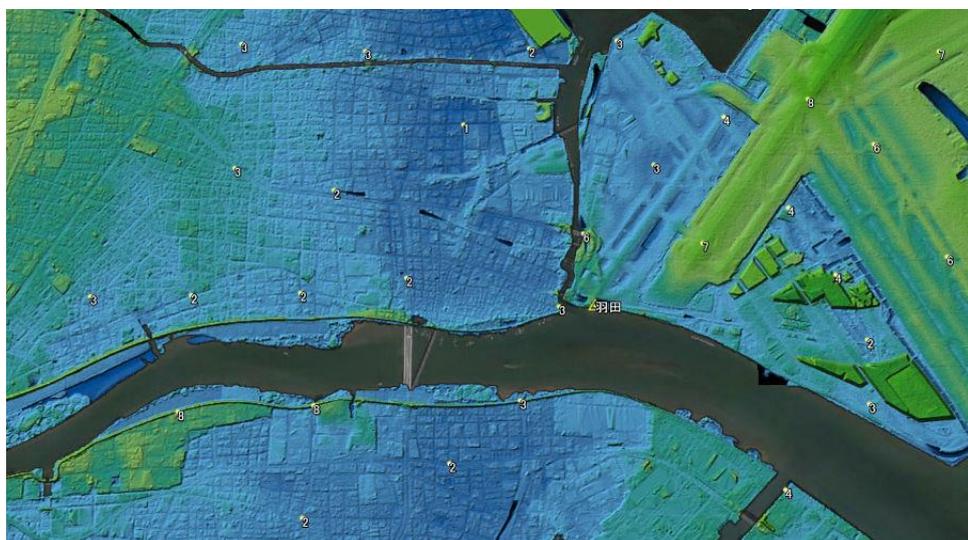
昭和 41 年

海岸は大規模に埋め立てられ、羽田飛行場は大幅に拡張され、東京国際空港の文字が初登場する。そして東京モノレールも。多摩川は堤防が整備されて、河川流路も固定化され現在と同じようすになる。宅地化が一層進み、幹線道路の整備進行し、川崎市側でも農地はほぼ姿を消している。



平成 11 年

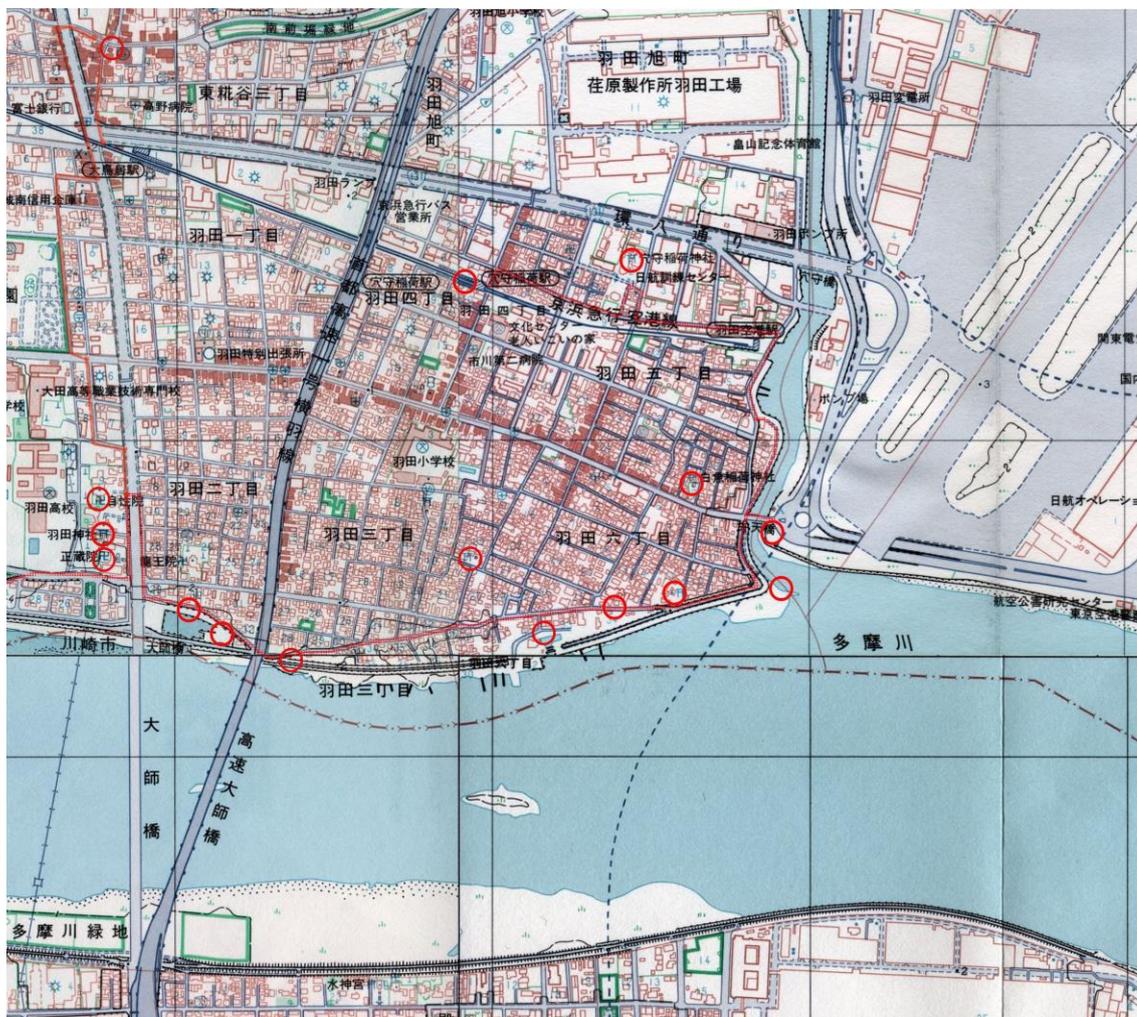
東京国際空港はさらに拡張され、これに伴って、京浜急行線や東京モノレールも延長されたほぼ、現在の姿。都県界は過去の多摩川流路の中心線を表示しているが、海老取川の東で微妙な変化がある。未調査だが、詳細な旧河道位置などを基に修正されたのか？



デジタル標高地形図

海老取川とそれを南へ延長した線上から西側、一定幅に低地が広がる。この南北の線が従来の海岸線だから、これから蒲田駅方向に向かって、地形がしだいに高まるのは当然のことである。海老取川の東（空港内）は、新しい埋め立て地であるため、一定の高まりがある。

コースマップ



その 80-2 蒲田・羽田穴森稲荷神社へ (距離約 4km)

【道順】

京急穴守稲荷駅→穴守稲荷神社→海老取川堤→白魚稲荷神社→五十間鼻→稲荷神社・玉川弁財天→多摩川旧堤1→かもめ稲荷神社→多摩川旧堤・船溜まりの水門(→羽田の渡し跡・多摩川旧堤煉瓦積み・船溜まりの水門→自性院・羽田神社・正蔵院→本羽田公園→長照寺・海岸寺→糞谷商店街→京急糞谷駅)→旧羽田獵師町の小路→羽田大鳥居→天空橋駅→羽田空港第1旅客ターミナルなど

+* * * + オフィス 地図豆 yamaoka mitsuharu +* * * +